

# かけはし

会報 96号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:井上 育世  
 事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 バロール代々木 415  
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:<http://www.jpald.net/>



## 第16回総会・第22回公開フォーラム・青年の交流会のご案内

第16回総会および第22回公開フォーラムを下記の日程で開催します。総会議案書・議決権行使書等は5月上旬に、各会あてにメールにてお送りいたします。研修会・公開フォーラム・青年交流会の申し込み等詳細については、各会にご案内済みです。

今年度の総会・公開フォーラムは、対面開催しますので、ぜひ富山にお出かけください。

### ●第16回総会（対面開催・書面表決書or委任状）

日 時:2023年6月17日(土) 12:30~14:00  
 会 場:富山県総合福祉会館 サンシップとやま  
 (富山駅から市電 大学行き「県庁前」下車徒歩2分)  
 ・オンライン参加もできます。

### ●研修会（対面+オンライン）

日 時:2023年6月17日(土) 14:30~16:30  
 会 場:富山県総合福祉会館 サンシップとやま  
 テーマ:「発達障害のある人の就労の現状と課題」  
 アンケート結果の解説と意見交換会  
 ・オンライン参加もできます。

### ●青年交流会「富山市電の車庫見学に行こう！」

日 時:6月17日(土)12:30~ (12:00~受付)  
 集合場所:富山県総合福祉会館 サンシップとやま  
 4年ぶりに対面開催します。ぜひ富山にお越しください。  
 詳細については、各会あてにご案内しています。



### ●今年度も残念ながら、懇親会は開催いたしません。

### ●第22回全国LD親の会公開フォーラム

#### 「発達障害のある人の自立と社会参加のために 今できること～親なき後を見据えて～」

会員の子どもの多くが青年となり、本人の自立と社会参加が課題となっています。発達障害のある人がその人らしく豊かな人生をおくるために大切にしたいことや親なき後に備えて今できること、親なき後の支援のあり方について考えます。【2023年度日本郵便年賀寄付金助成事業】

日 時:2023年6月18日(日) 10:20~16:00(10:00開場)

会 場:富山県総合福祉会館 サンシップとやま

開催方法:対面開催&リアル配信・後日ビデオ配信

定 員:会場参加 150名・オンライン参加 100名

参加費:無料

共催:富山県LD等発達障害及び周辺児者親の会

「ゆうの会」

#### プログラム

10:20 開演

10:30~12:00 基調講演

「生涯発達の視点から見た発達障害児・者と  
 その家族の自己実現のために」

講師:水内豊和氏(島根県立大学)

13:00~16:00 パネルディスカッション

話題提供①「就労自立のために大切なこと」

大島明子氏(社会福祉法人アルペン会)

②「地域の中でくらしていくために必要な支援」

北川 忠氏

(富山県発達障害者支援センター)

③「保護者が今・将来に対して考えていること」

箕田裕美氏(保護者)

④「今これからを考えた親のかかわり」

橋本真由美(保護者・ゆうの会会員)

16:00 終演

※申込等は、全国LD親の会のホームページをご覧下さい。(会員は、各所属会にお申し込みください)

**発達が気になる子の子育てモヤモヤ解消ヒントブック****親の会30年の経験から****社会の中で生きるちから編 2023年1月発行**

全国LD親の会の会員から、子育て中の困りごとや悩みのエピソードや工夫したことを集め、現在子育て中の方が自分たちらしく子育てしていく上で参考になりそうなことをテーマごとにまとめました。「こうすれば良かった」「もっと他に対応の仕方があった」といった反省点も含め、会員の体験談をたくさん掲載しています。

3巻目では、「社会の中で生きるちから」を育むために、「この社会はなかなか良いものだよ」と教えたい。そんな視点で、「ちょっと外に目を向けてごらん、あなたの周りにはワクワクすることがたくさんある」「勇気を出して自分の世界を広げていこう」そして「失敗したって、いつでも、何回も、やり直せる」といったエピソードを集めました。

2023年2月1日発行 A5判 155ページ

価格:1,650円(本体価格1,500円+税)

編著:NPO法人全国LD親の会 監修:安住ゆう子 発行:かもがわ出版

**もくじ****第1章 社会とかかわる第一歩～散歩や外遊びを楽しむために～**

- 1.外出などを怖がる 2.疲れやすい 3.こだわる場所から離れない 4.動き回って目が離せない
- 5.ひとりで同じ遊びをする 6.動きがぎこちなく危ない コラム:感覚の発達

**第2章 社会を学ぶ第一歩～子ども連れの外出から～**

- 1.外食を楽しむ 2.家族旅行を楽しむ 3.子ども向けの施設やプログラムを楽しむ
- 4.子ども連れで買い物をする 5.医療機関などに行く 6.公共交通機関を利用する 7.迷子への対応
- 8.ケガや事故にあわないように コラム:子どもと一緒にお出かけ準備

**第3章 自立の第一歩～親と離れて出かける～**

- 1.おつかい 2.子どものひとり行動 3.通学など 4.親と離れての宿泊 5.ひとりで出かけたときのアクシデント
- 6.子ども同士で出かける コラム:精神的自立

**第4章 趣味を持つ～豊かな人生のために～**

- 1.本人が好きなこと 2.親子で楽しむ 3.仲間ができる 4.好きなことから興味を広げる 5.つらい時の支え
- コラム:趣味と依存の違い

**第5章 主体性をはぐくむ**

- 1.好奇心を育てる 2.目標や夢をもつ 3.自分で考える力を育てる 4.自分で決める経験
- 5.周囲の意見を聞けるように 6.自分から行動する コラム:ティーチングとコーチング

**第6章 七転び八起き**

- 1.気持ちを前向きに切り替える 2.自分に自信をもてるように 3.行動するきっかけをみつける
- 4.サポートを求める 5.子どもの意欲が落ちてしまった時 6.視野を広げる
- コラム:失敗は成功のもと

**「発達が気になる子の子育てモヤモヤ解消ヒントブック」既刊本のご案内****集団の生活編**

「1日の大半を過ごす園や学校での集団の生活が充実したものになるように」

**ご購入は…**

かもがわ出版のHPからご購入できます。<http://www.kamogawa.co.jp/kensaku/syoseki/ha/1169.html>

※全国LD親の会会員は、各所属会にお問い合わせください。

## 2023年度 特別支援教育支援員養成ビデオ講座 受付開始

2023年度特別支援教育支援員養成講座は、昨年度と同じように学習支援員コースをビデオ配信する形式で開催します。本講座は、日本LD学会の特別支援教育士資格認定協会のご協力を得て、特別支援教育士SVの有資格の先生方を中心に講師をお願いしており、内容的に高い評価をいただいている。ビデオ講座は、ご自宅等で期間中、何度も見ることができます。

◆コース:

学習支援員コース[講習:19科目/26時間10分]

◆受講費:

・一般 21,000円(テキスト代1,000円含む)

・会員 17,000円(テキスト代1,000円含む)

(正会員団体の正会員・個人準会員・全国LD親の会の賛助団体の会員・個人賛助会員のかたは、会員価格で受講できます)

・お支払い クレジットカード決済・銀行振込等にて前払い

◆定員:100名(先着順)

◆全講習を受講した方に、講座修了証をお渡します。

◆プログラム

**2023年8月23日(水)～9月4日(月)配信**

1、特別支援教育概論 100分

竹田契一先生(大阪教育大学名誉教授、

大阪医科大学LDセンター顧問)

2、学校・学級での支援の仕方 60分

担任との連携の仕方 30分

小田浩伸先生(大阪大谷大学教育学部教授、

特別支援教育実践研究センター長)

3、子どもへの対応の基本 90分

笛廣みさき先生

(一般社団法人発達支援ルームまなび理事)

**2023年9月6日(水)～9月18日(月)配信**

4、主な障害の特性と理解(知的・身体・視覚・聴覚) 90分

花熊暁先生(愛媛大学名誉教授、関西国際大学客員

教授、特別支援教育士資格認定協会理事長)

5、主な障害の特性と理解(発達障害) 90分

花熊暁先生(同上)

6、ペアレント・トレーニングの視点 90分

今村佐智子先生

(一般社団法人発達支援ルームまなび理事)

**2023年9月20日(水)～10月2日(月)配信**

7、社会性・コミュニケーションの困難とサポート方法 90分

伊丹昌一先生

(梅花女子大学心理こども学部心理学科教授)

8、行動面の困難とサポート方法 90分

伊丹昌一先生 (同上)

9、介護・介助の基礎、移動介助 90分

小田浩伸先生 (同上)

**2023年10月4日(水)～10月16日(月)配信**

10、聴覚障害への対応方法 60分

能美由希子先生(筑波大学人間系客員研究員、  
手話通訳士)

11、視覚障害への対応方法 60分

氏間和仁先生(広島大学大学院人間社会科学研究科  
准教授 博士(教育学))

12、自立生活面の困難とサポート方法 60分

松久眞実先生(桃山学院教育大学教育学部教授)

13、学校生活面の困難とサポート方法 60分

松久眞実先生 (同上)

**2023年10月18日(水)～10月30日(月)配信**

14、特別支援教育コーディネーターからの  
レクチャー 90分

今村佐智子先生(同上)

15、支援員として活動して 60分

支援員3名・今村先生(同上)

16、読み書きの困難とサポート方法 80分

村井敏宏先生(青丹学園発達・教育支援センター  
フラー・テルL.C.所長、言語聴覚士)

17、言葉(聞く、話す)の困難とサポート方法 40分

村井敏宏先生 (同上)

**2023年11月1日(水)～11月13日(月)配信**

18、算数の困難とサポート方法 120分

栗本奈緒子先生

(大阪医科大学LDセンター言語聴覚士)

19、教材・教具の利用方法 120分

山田充先生(大阪市教育委員会インクルーシブ教育  
推進室通級指導アドバイザー)

◆受講申込方法

(1)お申込み

・一般:下記peatix申込ページから

<https://x.gd/nMKjj>

一般の申込二次元バーコード ⇒



・会員:下記会員専用申込ページから

<https://onl.tw/iRQbnQk>

会員の申込二次元バーコード ⇒



(2)募集期間:2023年4月11日(火)

～7月24日(月)

(3)テキスト:8月10日頃に受講者に郵送します。

※詳しくは全国LD親の会のホームページをご覧下さい。

## 第21回全国LD親の会公開フォーラム

**テーマ：「発達障害がある人の教育から就業への移行  
～コロナ禍における変化～」**

**日 時：2022年11月13日(日) 10:20～16:10**

**開催方法：オンデマンド配信+ライブ配信**

**配信会場：浦和コミュニティセンター(IT研修室)**

**共 催：埼玉親の会「麦」**

**茨城LD等発達障害親の会 星の子**

**参加者数：154名**

2022年度の公開フォーラムは、オンラインで開催しました。講師の先生方の講演と調査報告は録画配信、パネルディスカッションのみライブ配信でした。11月13日のライブ配信に加え、11月9日～23日までオンデマンド配信による視聴期間を設け、多くの皆様に視聴していただきました。

### 【基調講演】オンデマンド配信

**「発達障がいのある人の教育から就業への移行  
～今からできることを考える～」**

**講師：田村恭子氏(埼玉障害者職業センター)**

学齢期までは、困難さを感じながらも周囲からの支援で潜在していた問題が、職場環境によって困難さが顕在化した事例をご説明いただきました。職場では、学校で教わっていないことを求められる事が多く、職場での試練に対応するために、今からどんなことをしておけば良いか、わかりやすくご教示いただきました。コロナによる職場環境の変化は、個々の特性によって、馴染める人と馴染まない人がいるようです。発達障害者本人が自分をよく知り、自己肯定感を向上させる必要性を痛感しました。

### 【調査報告】オンデマンド配信

**「コロナで生じた教育から就業への状況変化」**

**報告：井上育世（全国LD親の会理事長）**

全国LD親の会が2022年7～10月に実施した会員アンケート結果（速報版）を報告しました。就職活動のオンライン活用は、政令指定都市以外の方が多かったそうです。またコロナ禍の就労について当事者の思いが寄せられ、就職環境の変化がよく分かりました。

### 【ミニ講演A】オンデマンド配信

**「変化を乗り越える就労準備を考える」**

**講師：朝日雅也氏（埼玉県立大学副学長）**

障害者就労支援の立場から、コロナ禍の働きづらさが、コロナという環境変化であるならば、従来の枠組みではない新たな視点を確保していくことが大切で、このリフレーミングの観点が障害者就労においても重要な要素であるとお話しいただきました。

### 【ミニ講演B】オンデマンド配信

**「変化を越えた事業主支援」**

**講師：河崎誠司氏（NPO法人サンライズ）**

障害者を雇用する企業の支援機関の立場から、企業の意識を変化させ、障害者雇用のニーズを拡大させる必要性についてご説明いただきました。コロナ禍での支援・工夫についてもご紹介いただきました。

### 【ミニ講演C】オンデマンド配信

**「保護者の私が就労支援事業に取り組んでみえたこと」**

**講師：吉田美恵氏（就労支援事業所カフェベルガ）**

茨城LD等発達障害親の会 星の子会員で、就労支援事業所を経営する立場から、事業所の取り組みと親としての思いが語されました。「子どもの将来は子ども自身に任せ、社会や福祉に頼ることも必要」という言葉が心に強く残りました。

### 【パネルディスカッション】ライブ配信のみ

**「コロナで生じた就労状況の変化」**

**パネリスト：ミニ講演講師3名 進行：井上育世**

従来の視点を変えること（リフレーミング）、本人が働きなくなるまで待つ姿勢が大切なこと、企業とうまくマッチングさせること、就労支援ケアマネジメントが形骸化しないようネットワークを本格的に構築すること等、活発な意見交換が行われました。

### 【感想】

就労期の息子を持つ保護者として、本フォーラムは大変高い関心をもって参加させていただきました。行政からの制度説明、コロナ禍での会員の状況報告、ミニ講演ABCへという流れはわかりやすいものでした。朝日先生のご講演は「コロナ禍による社会の『総障害化』」という発想の転換、「障害の特性をプラスに捉える視点」「自らが自分の障害と向き合っていくことが必要」とのお話が印象的でした。河崎氏の「変化を超えた事業支援」「仕事の洗い出し」「相談できる人の存在」の大切さ、吉田氏のカフェベルガでの素晴らしい取組みでは「自信のない人は、いったいどこで自信をなくしたのか聞きたい」という姿勢が温かいと感じました。今回の企画・準備に関わられたすべての皆様に感謝申し上げます。（関東・東北ブロック役員）



## 一般社団法人日本LD学会 第31回大会 報告

**日 時:**2022年10月29日(土)~30日(日)

**会 場:**京都国際会館+Web開催

**大会テーマ:**「子ども達のWell-Beingを育む

—こころ、からだ、まなびー

**大会会長:**相澤雅文(国立大学法人京都教育大学)

昨年10月29日~30日 京都国際会館にて日本LD学会第31回大会が開催されました。2日間にわたり、特別講演や大会企画シンポジウム等59講座、自主シンポジウム48講座が開催され、ポスター発表97件が展示されました。(大会企画シンポジウム14講座・教育講演13講座は11月末までオンデマンド配信されました。第31回大会への申込数は3,672名、総アクセス数は延べ19,345名のことでした。)

3年ぶりの対面開催となり、先生方や親の会の仲間とも久しぶりに会うことができました。親の会企画シンポジウムも対面開催となり、当日は100名ほどの方にご参加いただきました。

### 親の会企画シンポジウム

**日 時:**2022年10月29日(土) 10:00~12:00

**テーマ:**「自己肯定感をはぐくむ

～子どもと親が育ち合っていくために～」

**司 会 :** 井上育世 (NPO全国LD親の会)

**話題提供:**水田めぐみ氏

(大阪医科大学LDセンター)

**今村佐智子氏**

(一社 発達支援ルームまなび理事)

**清水政子氏** (兵庫LD親の会たつの子)

**指定討論:**後野文雄氏

(国立舞鶴工業高等専門学校修学支援室)

#### 【開催趣旨】

自己肯定感は人生のあらゆる場面での土台となるものであり、幼児期から青年期という長い期間をかけて育むには、年齢や特性・取り巻く環境によって、それぞれ異なる視点やアプローチが必要になります。本シンポジウムでは、幼児期から青年期までのいろいろな成長段階における支援者との関わりや、親の会での親同士の関わりを通して、親子が育ち合い、自己肯定感を育む環境を整えていく重要性について考えあいました。

#### 【話題提供1】

「幼児期の言語コミュニケーションの発達と支援」

水田めぐみ氏

言語聴覚士・公認心理師のお立場から、乳幼児期からの言語コミュニケーションの発達支援と大人のかかわり方について、分かりやすくお話しいただきました。

子どもの「伝わった！楽しい」という経験を増やす、「教える=教えられる(受け身)」という関係ではなく、「やり取りを楽しむ、かかわり方を引き出す」という意識が大切であること。「子どもの気持ちを大事にするかかわりで、人を信頼する気持ちをはぐくむ」「保護者の自己肯定感が子どもの安定した発達を支える(保護者支援が重要)」とのお話を心に響きました。

#### 【話題提供2】

「自己肯定感に視点をおいた子と親をつなぐ支援」

今村佐智子氏

小学校教員をされていたご経験から、具体的な子ども達の事例を交え、学齢期から自己理解・自己認知(折り合いをつける力)を育むことや、子どもの「できるようになりたい」という気持ち・モチベーションを大切にするかかわり方などについてお話しいただきました。「保護者の気持ちに共感する・子どものしんどさを共有する」という保護者支援やペアレンツ・トレーニングについて伺い、こうした支援が広がって欲しいと感じました。

#### 【話題提供3】

「我が子の成長過程における関わりを振り返って」

清水政子氏

保護者として、ご自身のお子さんの幼児期から青年期までそれぞれのライフステージでのエピソードと親の思いや支援者とのかかわり方について丁寧に話していました。小さな頃から「本人が意思を伝えられるように」「自分のことを決められるように」と支援者と連携しながら子どもが成長できる環境を整えること、親の会の仲間とのつながりの大切さを改めて感じるお話でした。



## オンライン行政勉強会 報告

### **第3回 11月27日開催 (43名参加)**

「放課後等デイサービスの質的向上・不登校について」  
講師:日詰正文先生(JDDnet事務局長／元・厚生労働省  
発達障害対策専門官)

日詰先生より、放課後等デイサービスの制度や質的向上のための取り組みについてお話しいただき、多くの質問にもお答えいただきました。

(当日、システム上のトラブルのため、勉強会に参加できない方が多数いらしたので、12月10日に改めて録画配信しました。)

#### < 参加者からのご意見・感想 >

- 放課後等デイサービスは療育の場なのか、安らぎや親のレスパイトの場なのか、その子の特性によっても位置づけが難しく感じました。またインクルーシブ教育との関係についても考えさせられました。
- もっと積極的に、不登校になる子どもの受け皿の選択肢を作るような働きかけを強めるべきだと思う。

### **第4回 1月22日開催 (57名参加)**

「自閉症・情緒障害特別支援学級と通級による指導」  
講師: 笹森洋樹先生(独立行政法人 国立特別支援教育  
総合研究所 発達障害教育推進センター センター長)

笹森先生より、支援学級・通級での指導や制度、最新の情報について詳しくお話しいただきました。

#### < 参加者からのご意見・感想 >

- 個別の指導計画について、先生と保護者は「苦手の克服」を目標にしがちであるが、子どもの「なりたい自分」の視点で考えないといけないというお話にはつとしました。子どもと相談しながら計画を作ることが大事だとわかりました。
- 支援級に在籍しても、通常級にいても、特性のある子どもの学びにくさは改善されず、義務教育であっても学習の保障はされていません。
- 私達親も学ばないと、子どもは守れないと思いました。

## オンライン役員交流会 報告

全国各地の役員が、活動についての相談や情報交換ができるよう「オンライン役員交流会」を定期的(偶数月)に開催しています。第5回目は、4月15日に開催します。

### **●第2回交流会 10月22日(土)19:00～ 33名参加**

各県の状況や各会の活動状況など話していただきました。「コロナ禍で孤立してしまった小中学生の保護者からの相談・問い合わせが増えている」という会も多く、「世代を超えた交流が好評」「継続的・定期的に活動することが大切」「青年の当事者活動に親がどこまで介入して良いのか?」といった思いや悩みを共有しました。

小学生のお子さんをもつ参加者より「ディスレクシアの子どもをもつ保護者と出会う機会がない。話ができる人がいない」との声がありました。

### **●第3回交流会 12月17日(土)13:00～ 24名参加**

毎回、多くの方に参加していただき、第3回よりグループ(ブレイクアウトルーム)に分かれて話し合うことにしました。文科省より発表された「特別な教育的支援が必要な児童生徒は8.8%」という調査報告や、障害者権利条約についても話題になりました。少人数で活発に意見交換することができました。

### **●第4回交流会 2月25日(土)19:00～ 19名参加**

第4回目も4～5名のグループに分かれて交流しました。年度末でもあり、「役員のなり手がない」等の運営上の悩みについても話し合いました。回を重ねるごとに、顔見知りが増え、自分の子どものことや近況報告など、和気あいあいとお話ししています。

## 幼児小学生保護者交流会 報告

小学生のお子さんをもつ会員より、「同世代の方と交流する場がない。ぜひ繋がりたい」との要望があり、1月27日(金)にオンラインで交流会を催しました。14名の参加があり、子どもの年齢の近い方同士のグループに分かれ交流しました。

子どもへの対応や就学・不登校のことなど様々な話題があり、お互いの悩みを話しあって、思いを共有することができました。参加者から「また、ぜひ開催してほしい」との声をいただきました。

次回は、4月21日(金)に開催します。

## WEBアンケートにご協力いただき、ありがとうございました

### ◎「発達障害のある人への就労移行支援における新型コロナの影響」Webアンケート

対象:高校生・大学生、30歳程度までの会員のこども

調査期間:2022年7月17日～10月末

調査方法:Xフォームを利用したweb調査

回答数:学生82名・社会人122名 合計204名

アンケート結果は、公開フォーラムにて報告しました。

(2022年11月13日開催)

※ 報告書を全国LD親の会HPにアップしますので、ぜひご覧ください。

### ◎「保護者から見たGIGAスクール～1人1台端末等の活用状況調査～」Webアンケート

対象:小学生・中学生・高校生をもつ会員

調査期間:2023年1月10日～3月末

調査方法:Xフォームを利用したweb調査

アンケート結果は、第32回日本LD学会大会(2023年10月8-9日開催)の親の会企画シンポジウムにて報告する予定です。

報告書は2023年秋までにまとめる予定です。

## 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク（JDDnet）より

JDDnetは、以下の政府関係の会議に参加し、発達障害者の支援について提言しています。全国LD親の会もJDDnet理事の立場で3つの会議に参加しています。

#### ■内閣府 「障害者政策委員会」

#### ■こども家庭庁設立準備室

「こども家庭審議会 障害児支援部会」

「未就園児等の把握、支援のためのアウトリーチの在り方に関する調査研究(NTTデータ経営研究所)」

#### ■厚労省

「社会保障審議会 障害者部会」

「障害児通所支援に関する検討会」

「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会」

「職場適応援助者(ジョブコーチ)の育成・確保に関する作業部会」

「高齢・障害・求職者雇用支援機構 評議員会」

#### ■国交省

「移動等円滑化評価会議」

#### ■文科省

「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会」

#### ■国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター

「発達障害教育の情報提供等にかかる検討会議」

#### ■国立国会図書館

「図書館におけるアクセシブルな電子書籍サービスに関する検討会」

#### ◆国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター主催の講座にて、全国LD親の会が講演しました。

テーマ:「通常の学級における発達障害教育の充実に向けた展望と人材育成」

## 全国特別支援教育推進連盟 より

### ◆ 第44回 全国特別支援教育振興協議会

テーマ:「インクルーシブ教育システムの充実に向けて」

令和4年12月2日 南大塚ホール(東京都豊島区)にて開催され、147名の参加がありました。3年ぶりの対面開催となり、全国LD親の会からも首都圏の会から8名が参加しました。後日、YouTube配信もあり、延べ1200回をこえる視聴数があったとのことです。

午前の部では「ICT教育の充実に向けて」とのテーマで、文部科学省・厚生労働省からの行政説明や「特別支援教育におけるICT教育の現状と課題」「ICTを活用した特別

支援学校の授業実践」についての講演がありました。

午後は「交流及び共同学習の充実に向けて」とのテーマで「特別支援学校に在籍する児童生徒の居住地とのつながりに関する調査研究」の結果報告をもとに、インクルーシブ教育について活発な議論が交わされました。

#### <参加者の感想 アンケートより>

先生方のお話は、保護者が希望していること、課題に感じていることをしっかりと理解されていて、課題解決に向けての実践を含めた動きも進んでいることを実感できる内容でした。

